

国指定 重要文化財（建造物）

水ノ子島灯台

灯台 附・旧時計

旧吏員退息所 附・囲障、旧時計

旧物置所



写真：公益社団法人 燈光会



水ノ子島灯台は、豊後水道中央に位置する水ノ子島に所在する灯台である。明治37年に初点灯・竣工した。総高は41.5mで、外側には、花崗岩を配置し、内部は煉瓦を積んだ二重構造の堅牢な造りとなっている。塔内部に貯水槽や燃料室、詰員寝室等を組込む独特の造りは、岩礁上という限られたスペースに必要な施設を供えられるようにするための工夫である。

灯台の建造同時期には、下梶寄浦に吏員退息所（官舎）が建設された。この建物は、昭和34年に用途廃止となったが、その後昭和58年に鶴見町（現佐伯市）へ払い下げられた。町は昭和62年に内部を改修し、水ノ子島灯台の歴史を伝える「海事資料館」、「渡り鳥館」として整備し一般公開した。

灯台に施された工夫や、同時期に建設された旧吏員退息所等施設群も当時の姿を伝えている点から、「近代航路標識整備の展開を知るうえで価値が高い」と評され、国の重要文化財に指定された。